

令和4年度 長崎市提案型協働事業 審査会・中間報告 結果一覧

		新規審査		中間報告	中間報告	中間報告
種別		行政提案型	種別	行政提案型	市民提案型	市民提案型
団体名		NPO法人まちラボ	団体名	福田小学校区コミュニティ 連絡協議会	NPO法人 長崎ドローン情報センター	東町侍石自治会
担当課		生涯学習課	担当課	廃棄物対策課	農林振興課	東総合事務所地域福祉課
事業名		デジタルお悩みサポート事業	事業名	高齢者等のごみ出し支援事業	ドローンを活用した 鳥獣害対策事業	矢上普賢岳魅力向上事業
事業費総額(円)		1,074,000	事業費総額(円)	951,000	895,000	990,000
(市負担額)		1,074,000	(市負担額)	950,328	895,000	990,000
番号	審査項目 (審査/継続審査)	各審査項目における平均点				
①	目的・課題の明確性	10	7.0			
②	協働の必要性	10	6.7			
③	協働による相乗効果	10	6.0			
④	協働の役割分担	10	7.3			
⑤	事業の企画力及び広域性、他地域への波及効果	10	8.0			
⑥	事業の実施能力	10	6.7			
⑦	事業の計画性、実現性	10	5.7			
⑧	事業の継続性、発展性	10	7.3			
⑨	費用の妥当性	10	7.0			
⑩	事業への熱意	10	8.3			
合計点(点)		100	70.0			
得点率(%)		100	70.0%			
審査結果		採択	審査結果	審査対象外	審査対象外	審査対象外
審査会コメント		<p>社会的なデジタル化やICT(情報通信技術)が進展する中で、情報格差を解消するため、市民を対象にスマートフォンやオンライン会議システムなどデジタル機器の操作方法を伝えていくことは、「長崎市DX推進計画」の基本施策に沿うものであり評価できる。</p> <p>ただし、公的機関の会議等におけるオンラインツールの利用が当たり前となり、職員のだれもが使いこなせる能力が求められるいま、公民館に勤務する市職員が、未だそのツールを使いこなせていない事実、そしてその使用方法を協働事業で教える必要性については疑問が残る。</p> <p>しかしながら、公民館がデジタル機器を苦手とする高齢者等のために寄り添った支援ができる窓口としての機能を果たすためには、公民館に従事している全ての職員のレベルアップは必須であることから、普通の使い方に加えて、団体でなければ教えられない技術を含めた計画を検討することを望むとともに、生涯学習課においては、職員は使えのが当たり前であるということを意識して事業に取り組んでほしい。</p> <p>また、高齢者等の市民向け事業の提案内容は、通常実施されている公民館講座との差別化ができていないように感じられたことから、公民館がICTを用いた学習活動の機会を提供するだけでなく、講座を受けた方に対するしっかりとアフターフォローを担う拠点となることがイメージできるような内容で事業を進め、その進捗については、事業の中間報告会や完了報告会において報告してもらいたい。</p> <p>さらに、本事業によって若者の地域とのつながりの創出を相乗効果としてあげているが、団体会員の若者に限定することなく、SNS等の情報ツールに精通する大学生などを広く巻き込むことで相乗効果を高めるとともに、若者が関係することで何を生み出したのか、そのためには若者にどのような役割を果たしてもらう必要があるかを明確にした上で事業に臨んでもらいたい。</p> <p>なお、収支予算については、人件費や旅費(交通費)が過大に計上されているように思われるため、その内容と額について精査することを望む。</p> <p>これらの要望を踏まえ、高齢者をはじめとした情報弱者の支援を担う新たな形の公民館の構築に期待したい。</p>	<p>本事業は、既に本市で実施されている「ふれあい訪問収集事業」の支援の対象にならない方々のごみ出し支援に地域の関係団体が連携して取り組むものであり、困難な状況にある方々を取り残さない社会を実現するうえで有効な取り組みであると評価できる。</p> <p>しかし、現時点において支援を必要とする方々の登録が6世帯に留まっていることを考慮すると、登録者が少ないことから、このままであれば、本事業がモデル事業として実施地域を拡大し展開していくことは困難と思われる。早急に協議会と担当課で課題を共有・分析し、支援の必要な高齢者などにごみ出し支援が届くよう登録者を増やす対策を講じていただきたい。</p> <p>今回の事業は、市の基準では対応できない境界の方々を地域コミュニティの独自性や柔軟性を活かして支援を届けようとするものであることから、地域の実情にあった登録要件の見直しを行うことで、支援を必要とするより多くの方が使いやすい仕組みをしっかりと構築していただきたい。</p>	<p>長崎ドローン情報センターと農林振興課の実施主体に加え、関係者が協力し数度にわたり調査を行えたことは評価できる。今後の効率的な捕獲につなげていくためにも、事業の終了までに有害鳥獣の動体把握の実証実験を継続して行い、成果が農作物被害の減少や市民の安全安心な生活につなげられるように期待したい。</p> <p>一方、調査によって得られたデータを整理・精査し、どのように活用していくかが今後の課題となるため、検証の方法、効果の測り方及び分析の方法についても引き続き検討していただきたい。</p> <p>本年度で事業は終了となるが、トライアンドエラーを繰り返し行う中で成果が得られることを考えると、単年度で終了することはとても残念である。今後さらに対話を重ねながら、本事業をどのような形で次につなげていくかを完了報告会では示していただきたい。</p>	<p>地域の魅力向上をテーマにする本事業は、まちづくり・地域づくりを念頭においた事業である。</p> <p>今回制作する紙芝居やマップ、スタンプラリーなどの各コンテンツを連動させ、地域で活用していくことは東長崎地区の賑いや文化の伝承につながっていくことがイメージできることから事業の有用性を評価できる。</p> <p>事業の実施にあたっては、地域住民と市が主体的に関わっていくことが矢上普賢岳の魅力向上に直結することから、引き続き積極的な実施に努めてもらいたい。</p> <p>また、昨年度の新規事業の審査会コメントに示すように、引続き成果指標の設定と評価について留意いただきたい。</p> <p>当該地区には企業をはじめ様々な団体が存在することから、できるだけ早い段階で多くの主体を巻き込み、それぞれの立場で矢上普賢岳を活かして何ができるかを考え、協働しながら事業を行っていただきたい。</p>	